

久米島自然講座

久米島で「渡り鳥」を語る ～久米島と渡り鳥とワタシ～

主催:ラムサール・ネットワーク日本
支援:Patagonia日本支社

「久米島の溪流・湿地」は、日本国内では37番目の「ラムサール条約湿地」として、2008年に登録されました。

*注) ラムサール条約は、国際的に重要な湿地とそこに生息・生育する動植物の保全と賢明な利用(ワイズユース)を進める国際条約で、正式名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」です。

久米島は、海・山と手つかずの自然が豊かでありかつ、人と自然が持続可能な環境つまり「里山」を大切にしてきました。

この環境は、渡り鳥たちにとっても休息の場、繁殖の場として稀有な存在です。今回は、「渡り鳥」を中心テーマとして「久米島と渡り鳥とワタシ」と題して、久米島の自然を愛する方々とともに、基調講演とトークセッションを通して、久米島と渡り鳥の関係を紐解くイベントを開催します！

日時:2025年9月27日(土) 14:00～16:30

場所:風の帰る森交流施設

申し込み:<https://forms.gle/jdWUZkj7WT3qTQhc8>

* 残席ある場合、当日参加できます。

問合せ先: Mail:info@ramnet-j.org

電話:03-3834-6566(留守電)



申込先QRコード

プログラム1 講演

●「雁のSDGs ～誰も取り残さない～」(仮)

日本雁を保護する会 会長

ラムサール・ネットワーク日本 理事 呉地正行氏

●「シギチの仲間愛 ～遺伝子に刻まれた旅～」(仮)

ラムサール・ネットワーク日本 理事 柏木実氏

プログラム2 トークセッション

「久米島にやってくる渡り鳥について語ろう」

パネリスト 呉地正行氏 柏木実氏 他1名(予定)

裏面に「語り人」(講師)からのメッセージ





冬の渡り鳥、雁は、家族の絆がとても強い鳥です。夏に北極圏で子育てした雁の家族は、秋に数千キロの旅をして、越冬地の日本などへ渡ってきます。

この間、雁の子供は親を見失うことはありません。それは卵から孵化したヒナには、初めて見たものを親と思い、迷子にならない「刷り込み」という習性があるからです。

そのおかげで、子供たちは親に導かれて長い渡りの道を「学習」することができ、沖縄や久米島まで渡ってくる鳥もいます。これ以外にも雁の家族は、言葉や合図を使いながら全員一致で行動し、家族の命が脅かされる時も、一羽の仲間を見捨てることはありません。

語り人から：



呉地正行 氏

語り人から：



柏木 実 氏

長距離を旅するシギやチドリたち

—小さな渡り鳥たちの不思議と迫る危機—
「千鳥足」「千鳥格子」などの日本語を知らない人はないほどなじみが深いシギやチドリたちですが、季節と共に旅をすることもあり、数も減っているのを見たことのある人は意外に少ないようです。しかし、この小さな仲間たちの生活は不思議なことがいっぱいです。

シギ・チドリ類の生活。久米島との関係、中でも世界で100から200番(ツガ)いのこの仲間が久米島にも来たことがあること。などについてお話しします。

